Bーぐる沿線協議会ニュース

第32号

令和７年３月発行　Bーぐる沿線協議会事務局　区民課庶務係コミュニティバス担当 03-5803-1387

沿線協議会が令和７年１月23日に開催され、協議会の会長・副会長の選任が行われたほか、令和６年度第３四半期運行実績、令和６年度Bーぐる友の会の活動に関する報告がありました。

Bーぐるの乗車人数はコロナ禍以前とほぼ同水準まで回復

令和６年11月の委員改選後最初の開催となったため、最初に今回から参加の新たな公募委員を含む各委員と事務局の紹介があった後、元田会長、寺澤副会長が再任されました。

再任された元田会長

会議冒頭で、元田会長から「運行開始から18年経ち、３路線で年間100万人に利用されるまでなった。一方で、見直すべき部分も出てきた。皆様の意見をいただきながら、より良いものにしていきたい」と挨拶がありました。

これに続き事務局から、沿線協議会の趣旨と運行事業の概要の説明、令和６年度第３四半期の乗車人数の報告がありました。

千駄木・駒込ルートは399,731人、目白台・小日向ルートは372,471人、本郷・湯島ルートは166,529人と前年度を大幅に上回りました。

参加委員からは、本郷・湯島ルート乗車人数の前年比30%増加に関する質問があり、事務局から、走り始めて年数が経つほどに区民の足として認知され、定着しつつあることが要因と回答がありました。

また、区民や観光客の足となっている一方、運行事業者の運転手不足が減便につながっていることが課題であることから、コミュニティバスを維持していくための手段のひとつとして運賃の見直しも検討すべきとの意見に対し、事務局から、運行事業者との協議を重ねていきたいと回答がありました。

新たに公募委員になった皆さん

Bーぐる乗車人数（令和６年４月～12月）

	千駄木・駒込ルート	目白台・小日向ルート	本郷・湯島ルート
乗車人数 (対前年度)	399,731 (+31,646)	372,471 (+29,018)	166,529 (+38,480)

３か月定期券や無料乗継停留所が増えて、ますます便利に

事務局から、定期券販売及び無料乗継停留所の改定案の報告がありました。

令和７年４月１日から、これまで１か月単位のみでの販売であった定期券が３か月単位で購入できるようになるほか、文京シビックセンター周辺において１回に限り無料で乗り継ぎができる停留所を増やし、３路線の起終点間で乗り継げるようになります。こうした利便性向上の取組により、Bーぐるの利用者数が増えることが期待されます。

新たな公共交通システム導入可能性調査の中間報告

事務局から、現在調査中の「新たな公共交通システム導入可能性調査」の中間報告がありました。

この調査は、各種資料調査や先行事例調査、住民アンケート調査等から地域の現況や住民の移動ニーズを把握し、新たな公共交通システムの導入可能性を具体的に検討するものです。

アンケート調査は、令和７年１月に白山三・四丁目、千石二・三丁目、大塚四～六丁目に在住の 18 歳以上の男女 3,000 人を対象に行い、既存駅やバス停の利用状況、新しい公共交通システムに関する利用意向等を聞きました。

あわせて、文京シビックセンター、大塚地域活動センター、大原地域活動センターでパネル展示型説明会を開催し、来場者の生の意見を聴取しました。

調査の結果は、今後の沿線協議会で報告される予定です。

パネル展示型説明会（文京シビックセンター）の様子

イベントや応援グッズで、もっと沿線地域を盛り上げたい

最後にＢ―ぐる友の会の飯森委員から、令和６年度の活動報告と今後の計画について説明がありました。

主な活動として、車内動画の制作では、今回からフミコムの協力を得て区内４大学（東洋大学、跡見学園女子大学、順天堂大学、中央大学理工学部）の学生グループと協働で車内番組を制作することが出来ました。

10 月に開催したＢ―ぐる洗車ツアーは、あいにくの空模様にも関わらず、抽選で選ばれた 20 組 49 名の子どもたちと保護者がＢ―ぐるの車庫に集まり、ジェット噴射を使った洗車体験や運転席での記念撮影を楽しみました。

また今年度は、区内のイベントにも積極的に参加してＢ―ぐるの PR に力を入れました。11 月の文京博覧会（ぶんぱく）では、Ｂ―ぐる紹介コーナーのブースに応援参加し、Ｂ―ぐる応援グッズの人気投票を開催、２日間で延べ 400 名以上が参加するなど関心の高さを実感することが出来ました。

次年度以降もこうした活動を通じてＢ―ぐるを盛り上げていきたいとの意欲を語りました。

寺島委員からは、ミニカーなど新たなＢ―ぐるグッズがあれば、知名度や集客のアップにつながるのではとの提案があり、青木委員からも、一般的なトミカの値段より少し高くても欲しい親御さんはいると思う。実現に向けクラウドファンディングも視野に入れてはといった積極的な意見がありました。

事務局からは、同じような取組をしている他自治体もあるので不可能ではないことから、様々な案を検討して、増収につなげていければと回答がありました。

（上）Ｂ―ぐる洗車ツアー、（下）文京博覧会　の様子

編集後記

Ｂ―ぐるが最初の運行を開始してから 18 年が経過しました。３路線になり、公共交通不便地域の解消に向けた取組も前進しました。この間、運転士不足や電気自動車へのシフト等、地域交通をとりまく外部環境も大きく変化しています。Ｂ―ぐるの今後の展開に期待したいと思います。（N）